

## 消費が世界を変える

京都市国際交流会館館長  
高木 壽一

フェアトレードをご存知だろうか。公正貿易という意味で、欧州で始まった運動だが今では多くの先進国で知られるようになった。これは発展途上国の貧困と環境破壊に立ち向かう運動である。

発展途上国に対しては国際機関や先進諸国から資金供与をはじめ様々な支援が行われているが、これだけでは自立的発展は期待できない。自立の重要な条件は国民が働きその収入によって生活することである。ご存知のチョコレートは主として発展途上国で栽培されるカカオの実からつくられている。原料採取に従事する現地住民の賃金は月額わずか千数百円、とても生活できない。子ども達もさらに低賃金で働いていて、教育どころではない。食品に限らず、ブランド品として販売される工芸品など様々なものが劣悪な労働条件で作られている。自立した生活が出来るように適正な生産コストを支払って輸入する。それがフェアトレードである。

綿花栽培にはすさまじい量の農薬が使われていて、特にインドでは環境破壊が進むとともに多くの住民が低賃金と健康被害に苦しんでいる。一方では同じインドで無農薬栽培と伝統の手仕事によって素晴らしい綿製品が作られているがそれを知る人は少ない。それを適正な価格で輸入するのがフェアトレードである。環境を護る力になる。

難しいことではない。手作りの良いものを買う、それだけで私達は世界に貢献できるのである。フェアトレード商品には認証ラベルがついてい

る。京都市内にも専門店があり最近ではスーパーでも売っている。ネットで検索して欲しい。

ところで消費者といえば生産者と対極にあるものとして語られるが、今の世の中モノもサービスも一切消費せずに暮らしている人はいない。社長も工場長も、正社員も非正規社員も全て消費者である。消費者を欺けば自分自身と家族を欺くことになり、非正規社員の賃金を不当に低く押さえれば自社の商品やサービスが買えなくなる。よそ事ではない。わが国においてもフェアトレード精神が必要である。市場原理より当たり前のことを当たり前とする社会のほうが安心して暮らせるように思うのだからいかかでしょうか。

